

Editor's Note

皆様のご協力をいただき、『現代ディスクロージャー研究』第15号をお届けできることになりました。本号は、私が2015年4月に編集委員長とならせていただいてから最初の号となります。『現代ディスクロージャー研究』は、歴代の会長、理事、編集委員長、会員の皆様の多大なご尽力により、ディスクロージャー研究の領域では、自他ともに認めるトップジャーナルの一つとなっています。これまでの編集委員長のご努力に思いを馳せながら、身が引き締まる思いで、この1年間、編集委員長という重職を務めさせていただきました。

本号においては、論文セッションに5本の投稿があり、厳正な審査の結果、2本が採択されました。また、これらの他に招聘論文を掲載させていただくことができました（次ページの編集データ参照）。

1本目の論文は、K-IFRS(Korean International Financial Reporting Standards)に関連する実証研究で、本誌主催の第8回研究カンファレンスにおける報告をもとに執筆されたものです。当該論文は、研究カンファレンスにおけるディスカッションと査読を経て、大幅に改善され完成に至ったもので、執筆者のひたむきな修正作業と査読委員の根気強いアドバイスの賜物であります。若手研究者養成というカンファレンスの目的が実現したよい例であるといえます。

2本目の論文は、日本の地方銀行業による貸倒引当金繰入における裁量行動を分析する論文です。日本の会計実務を研究上十分に反映しており、丁寧な検証が行われています。大部の論文となっておりますが、これは、本誌が原稿に字数制限をつけていないことによって、オリジナリティの高い研究が説得的に展開されたことを意味しています。

これらの論文に加えて、本号では、2014年度に名誉会員になられた國村道雄氏（名古屋市立大学名誉教授）からの会員へのメッセージを掲載することができました。日本における会計研究のあるべき1つの姿をシカゴ大学のDouglas J. Skinner教授の論考を利用しながら示された氏のメッセージは、われわれ会員に対する叱咤激励であり、われわれの研究姿勢に長くよい影響を与えるものと思います。

最後になりましたが、査読をご快諾いただき、本誌の研究水準の向上に貢献していただいた査読委員の皆様にあらためて感謝いたします。また、不慣れな編集委員長を支えていただいた、編集委員会の先生方に衷心より御礼申し上げます。

『現代ディスクロージャー研究』編集委員長
奥村雅史

編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第15号の編集状況は、次のとおりである。全ての原稿は、研究誌編集委員会が採否を決定した。また、論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。

論文セッション

受付数	4
受理数（採択率）	2（50%）

招聘論文

名誉会員によるもの	1
-----------	---

研究誌編集委員会

謝 辞

査読委員による真摯なレビューによって、本誌の高い品質が確保されました。研究誌編集委員会は、ここに記して、第15号の査読委員の皆様へ感謝の意を表します。

太田 浩司	関西大学
音川 和久	神戸大学
乙政 正太	関西大学
加藤 千雄	大阪経済大学
杉本 徳栄	関西学院大学
野口 晃弘	名古屋大学
吉田 靖	東京経済大学

(敬称略、五十音順)

研究誌編集委員会